

大会申し合わせ事項

1. 大会適用規則

本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則及び本取り決め事項を適用して行う。
相模原市少年野球協会感染予防対策ガイドラインに記載されている事項は優先される。

2. 競技運営に関する注意事項

- (1) 主将会議で説明または決められた事項は、必ずチーム全員に徹底すること。
- (2) 会場に到着後速やかに打順表 3 通を本部に提出し、登録原簿と照合の後、球審立ち会いのもと攻守を決定する。
打順表へは、登録された選手全員を記入し、氏名欄の右端へは学年(数字)を記すこと。なお、女子選手には背番号数字を丸で囲うこと。
第 1 試合 : 試合開始予定時刻の 30 分前まで
第 2 試合以降: 前の試合の 3 回終了時または試合開始後 60 分経過時のいずれか早い方
前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始することがあるので、試合開始予定時刻 60 分前には試合会場に到着し、本部へ到着を届けること。
- (3) 攻守決定の時に、試合で使用する捕手用ファウルカップ、サングラスを持参し審判による点検を行なうこと。またテーピング等を必要とする選手がいる場合、その選手を同伴して申告を行うこと。
- (4) 参加登録書提出後の選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。ただし、疾病・負傷等の特別な場合は、資格審査の上、認めることもある。
- (5) ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督 30 番、コーチ 29 番・28 番および選手 20 名以内と、チーム責任者、スコアラー、マネージャー、トレーナー等(有資格者)各 1 名とする。ただし、監督、コーチは成人者でなければならない。熱中症対策として、保護者(女性)2 名以内をベンチに入れることができる。
- (6) ベンチは組合せ番号の若いチームを 1 塁側とする。ただし、1 チームが 2 試合続けて行う場合はベンチの入れ替えをしないことがある。
- (7) 守備時間が長い場合(概ね 20 分)には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。(試合時間に入れる)

3. 大会特別規定

- (1) 試合は 7 回戦とするが、規定時間 90 分を過ぎたら新しいイニングには入らない。
- (2) 5 回終了もしくは規定時間が経過したらゲームは成立する。
- (3) 得点差によるコールドゲームは、3 回以降 10 点差、5 回以降 7 点差とする。
- (4) 7 回もしくは規定時間を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。タイブレーク方式は、無死一・二塁・継続打順で行う。(前回の最終打者を 1 塁走者、その前の打者を 2 塁走者とする。)
- (5) タイブレーク方式で 2 回を完了しても決着がつかない時は、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。
- (6) 暗黒、降雨などで正式試合の成立前に中止になった場合、また正式試合が成立したが同点で試合が中止の場合は、翌日に特別継続試合を行うことがある。正式試合が成立しない場合は、打ち切りになったところから試合を行うが、正式試合が成立した場合は、暗黒コールドゲームが宣告される。ただし、決勝戦は再試合とする。
- (7) 選手の肘・肩の障害予防として、1 人の投手が 1 日に投球できる数は下記の取り扱いとする。この投球数制限は、選手が安全に安心して健康で野球を楽しむことを目的としている。
 - ① 70 球以内(4 年生以下 60 球以内)
 - ② 試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
 - ③ ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
 - ④ タイブレークになった場合、1 日規定投球数以内で投球できる。
 - ⑤ 牽制球や送球とみなされるものは投球数としない。
 - ⑥ 投球数の管理は、大会本部が行う。

- (8) 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークは、2イニングに1回とする。
- (9) 捕手または内野手が、1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークとなった場合は、2イニングに1回行くことが出来る。野手(捕手も含む)が投手の所へ行つた場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。
- (10) 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、タイブレークは、2イニングに1回とする
- (11) 試合前のシートノックは行わない。攻守決定後、会場内のブルペンで先発バッテリーに限り練習することを認める。捕手はマスク、スロートガード、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガーズ、ファウルカップを着用すること。
- (12) 会場内でのバットを使用する練習を禁止する。
- (13) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)、携帯マイク及びカメラ・ビデオの持ち込みを禁止する。メガホンはベンチ内に1個に限り許可する。
- (14) 選手、監督、コーチはユニフォーム、アンダーシャツ等、全員同形・同色のものを使用すること。代表者、スコアラー、マネージャーはスポーツに相応しい服装とするが、ユニフォームを着用する場合はチームと同一の服装(ユニフォーム、アンダーシャツ等)とし、ユニフォームの上着は監督・コーチと区別できるようにすること。
- (15) ファウルボールは、1塁側のものは1塁側ベンチ、3塁側のものは3塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理する。ボールボーイ、バットボーイはヘルメット着用のこと。
- (16) 対戦した両チームの監督、コーチはグラウンド整備に協力すること。
- (17) 楽器等、鳴り物での応援は行わない。また、ウイツツひばり球場以外ではメガホン等での応援を行わない。

4. 使用球

大会使用球は、全日本軟式野球連盟公認球J号とする。

5. 試合のスピード化に関する事項

- (1) 試合はスピーディに運ぶよう努め、1試合の競技時間は90分以内を目標とする。試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。
- (2) 各回の先頭打者と次打者、ベースコーチは、ミーティングには参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
- (3) 打者は、速やかに打者席に入り打撃姿勢をとること。また、打者席内でサインを見ること。
- (4) 試合中スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
- (5) 走者は、ファウルボールが打たれたとき、駆け足で元の塁に戻り触れること。
- (6) 投手は、投球練習は初回5球、2回以降は3球とする。

6. 試合日程の変更について

- (1) 天候不順等で試合中止の判断は各試合会場で行うので、第1試合のチームは会場に集合する。中止の連絡は支部長を通じて行うとともに協会ホームページにも記載する。
- (2) 日程変更の連絡も原則支部長を通じて行うとともに協会ホームページにも記載する。
- (3) 大会期間中、学校行事(運動会、修学旅行、参観日等)その他協会が認めた行事等は、参加申込み時に2件まで申告することができる。ただし、その場合でも大会日程の都合により変更出来ない場合があると共に授業参観日の場合は当日最後の試合に組み込む場合がある。
なお、申告した行事が学校都合で日程変更になった場合は、試合予定日の2日前までに連絡すること。
- (4) 協会指定上部大会への出場の場合は上部大会日程を優先する。
- (5) 大会日程上の都合でダブルの試合になる場合がある。
- (6) 大会日程が終了しない場合、上部大会派遣チームを抽選で決める場合がある。



感染予防対策ガイドライン

【はじめに】

本ガイドラインは、新型コロナウイルス感染拡大を予防するため制定するものであり、大会参加者(応援者含む)皆さまへガイドラインへのご理解とご協力を求めるものです。

なお、大会期間中において、協力を得られない参加者(応援者含む)については、他の参加者の安全を確保する等の観点から、大会への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあります。

神奈川県および相模原市の方針に従うことを前提に、感染予防対策に配慮しながら、現段階で得られている知見等に基づき本ガイドラインを作成しており、今後の知見集積及び他地域の感染状況を踏まえ、本ガイドラインは見直すことがあります。

【チームの活動について】

- ・小規模 最大 50 人程度を上限として、感染症対策、3 密を避けること等を徹底すること。
(人との距離を保つ、近距離での発声を避ける、活動前後の手洗い励行等)
- ・呼気が激しくなる運動や大声を出すような活動は避けること。
- ・用具等の消毒については、可能な限り消毒すること。なお、消毒が難しい用具等もあると考えられるので、手洗いを徹底させることで感染症を予防すること。

【試合について】

- ・ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督 30 番、コーチ 29 番・28 番および選手 20 名以内と、スコアラー 1 名、3 密・熱中症対策員 2 名(女性が相応しい)とする。
- ・ベンチ等球場内グラウンド設備の消毒を可能な限り実施し、チーム入れ替え時に密集とならないよう、十分に試合間隔をあけることとする。
- ・密を避けるために試合間隔を空けることから、試合時間、試合回数は制限される場合がある。
- ・試合前後は手洗いを徹底させることで感染症を予防すること。
- ・試合前後の整列はキャプテン同士とし、選手は省略する。
- ・ベンチ内でのメガホン使用を禁止する。
- ・タイムを取って指示する場合は 30 秒以内とする。
- ・キャッチャーマスク、ヘルメット、バット等は共用せず、使用前後に消毒すること。仕方無く共用する場合は使用前後に手洗いをすること。
- ・同一容器を複数人で使用しないこと。(ウォータージャグ、滑り止め剤等)



【 感染予防対策 】

- ・ 発熱(37.5℃以上)、咳、倦怠感などの風邪症状および味覚嗅覚を感じない者の参加を認めない。また、14 日以内に感染者との接触や濃厚接触者と特定された者も参加を認めない。
- ・ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は参加を認めない。
- ・ 選手、チーム関係者、役員、審判員、応援者は会場に入る際、必ずマスクを着用すること。
また、試合前の攻守決定時や大会運営側ならびに審判員からの諸注意をチームに伝える場合は、各々マスクを着用して行うこと。
- ・ 手洗い、うがい、マスク未着用時の咳エチケットの励行をおこなうこと。
- ・ 大会当日、参加者は検温を実施し会場へ来ることとし、チーム代表者は参加者全員(応援者含む)の健康状態を確認し、健康チェックシートを大会本部へ提出すること。
- ・ 屋外利用施設内における唾、痰を吐く行為を厳禁とする。
- ・ 感染者が発生した場合には、大会を即中止とする。
- ・ 大会参加者(応援者含む)に感染が判明した場合には、参加者名簿を関係機関に公表する。
- ・ 選手が密集・密接する円陣や声出し、整列などは禁止とする。
- ・ 競技中のマスク着用については、選手、審判員の判断とするが、ベンチ内に居る時には、全員がマスクを着用することを推奨する。ただし、熱中症予防に配慮すること。
- ・ 競技中、監督 30 番、コーチ 29 番・28 番、スコアラー 1 名、3 密・熱中症対策員 2 名は必ずマスクを着用すること。またマスクを顎など正しく着用していない形態での発声は慎むこと。
- ・ 肌が触れ合うハイタッチなどは行わず、各々コミュニケーション方法を模索すること。
- ・ ゴミは各自持ち帰ること。
- ・ 応援者については、観客席が「密」にならないように、一定の距離を保って観戦するようにチームごとで応援者に注意喚起を行うこと。なお、運営側でも、入口などに貼り紙を行ったり、放送による呼びかけを実施したりします。
- ・ 応援者はメガホンの使用を禁止する。また、大声での応援も自粛すること。
- ・ 会場によっては、施設の感染予防対策も併せて実施する。

以上